



## 新年のご挨拶

皆さま、新年明けましておめでとうございます。清々しい気持ちで、2021年の新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。昨年も多くの患者さんをご紹介いただくなど当センターの運営にご協力いただきましてありがとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

昨年の医療連携ニュース新年号でも、「想像を超える自然災害が続きますと・・・」と災害の影響の大きさについて触れました。昨年は何と言いましても新型コロナという未曾有の禍にわが国だけでなく世界中が巻き込まれ、まだその驚異の真只中にあります。皆さまの施設でも、さぞさまざまなお苦労があったことと拝察いたします。心からお見舞い申し上げます。

私たちが、とくに妊婦や小児における新型コロナ感染の実情や対応策が分からなかった3、4月には対策に右往左往し、まさにピリピリした日常が続きました。幸い、妊婦や小児には感染者は少なく、とくに小児の重症者はほぼ皆無です。したがって、私たちは小児救急を含め、日常診療・業務を確実に遂行して連携施設の皆さまをご支援することが務めであると考えています。

当センターは、重篤小児救急医療はもちろん、コロナ禍で少し滞りましたが、外傷を含めた小児救急医療機能をさらに拡充し、ますます皆さまから頼りにしていただける病院となるべく努力いたします。地域に貢献できることこそ、われわれ母子医療センターの重要な役割と考えています。

会議や学会などでWEBが多用され出張の機会が減ったことはコロナ対応での唯一のメリットかもしれません。診療においても対面のみでなく電話やオンラインでの診療が増える可能性があります。私たちが、e-ラーニングシステムを含むICTの充実を図り、地域の医療従事者の皆さまや患者さんへのサービスの充実を図りたいと考えています。

今後も当センターは、ハイリスク妊産婦、病的な胎児、未熟児や小児の希少・重篤な疾患に対して高度・専門的医療を提供することは最大の使命ですが、加えてローリスクな妊産婦も担当し、小児の内科・外科疾患に幅広く対応する必要があると考えています。もちろん、小児医療の専門家集団として common disease に対しても常に質の高い医療を提供いたします。加えて、慢性期疾患患者の在宅医療や移行期医療にも積極的に取り組みます。また、長く取り組んできた、妊娠期からの虐待防止、産後ケアなどの母子保健事業にもますます力を入れたいと考えています。

本年も、地域の医療従事者の皆さまのご指導とご支援をよろしくお願いいたします。



総長 倉智 博久

## 基本理念

母と子、そして家族が笑顔になれるよう、質の高い医療と研究を推進します。

## 基本方針

- 周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供します。
- 患者さんとの相互信頼の立場に立った医療を行います。
- 地域と連携して、母子保健を充実させます。
- 母子に関する疾病の原因解明や先進医療の開発研究を進めます。

耳鼻  
咽喉科

小児耳鼻咽喉科の2大領域は気道疾患と難聴です。

気道疾患としては、睡眠時無呼吸症候群や、扁桃肥大、アデノイド肥大などの一般的なものに加え、喉頭軟弱(軟化)症、気道乳頭腫、気道異物、嚥下障害などに対する、より専門性の高い加療を行っています。特に、喉頭軟弱症に対する手術を行っている施設は国内でも稀で、麻酔科の協力の下、ハイリスク症例も対応している他、非挿管の全身麻酔下に自発呼吸状態での気道観察や加療が可能である点も、当科の特徴です。

難聴に関しては、専属ST4名体制で小児の聴力検査(CORなど)や鎮静を要する他覚的検査(ABRなど)を行い、早期に難聴診断、補聴器の要否判定を行い、中耳炎に対する各種手術、聴力改善術、さらには重度難聴に対する人工内耳手術を行っています。真珠腫性中耳炎に対しては、なるべく外耳道後壁を残した術式を選択し、進展例では半年から1年の間隔をあけて2回に分けて手術することにより、術後の再発リスク低減を図っています。

その他、正中頸嚢胞や副耳、先天性耳瘻孔、舌小帯短縮症などの加療も行っていきます。

今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



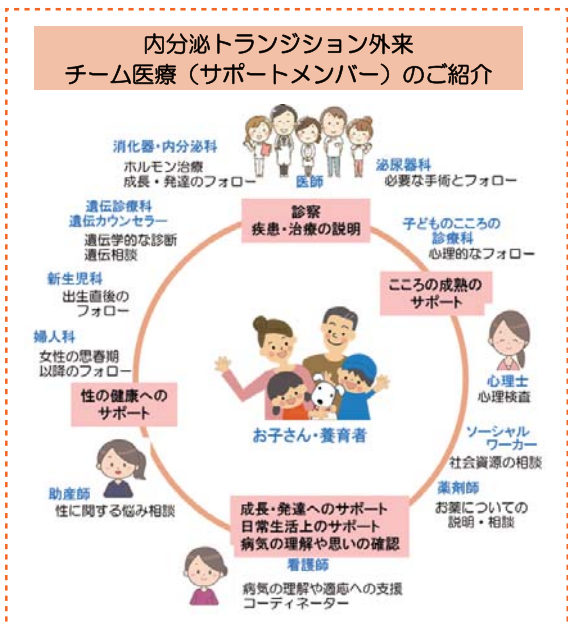
耳鼻咽喉科スタッフ

(耳鼻咽喉科 部長 岡崎 鈴代)

小児外来

の 紹 介

子どもの発達段階を考慮した自律・自立に向けた支援と子どもと養育者への疾患理解のための支援を目的とした移行期(トランジション)外来を設けており、医師、看護師、心理士をはじめ、多職種でそれぞれの専門性を活かしながら子どもと養育者にとってのより良い支援について検討しています。



【内分泌トランジション外来 :DSD (性分化疾患)】

Full disclosure (情報の全面開示)を基本に養育者と共に個々の患者さんに合わせた病気説明のタイミングや説明内容について検討しています。そして、患者さん本人へ成長・発達に応じた説明を行い、妊孕性も含めた正しい病気の理解ができるようにサポートしています。

【ここからステップ外来 :先天性心疾患】

患者さん本人が病気を理解して自己管理を行い、成人向けの診療体制へ移行できるように、患者さん・ご家族の病気に対する思いや理解度を把握し、患者さん本人への病気説明を行っています。また、ご家族とは別に患者さん本人だけで診察室に入る経験をしてもらうなど、患者さんの自立や移行の準備を支援しています。

【cloaca トランジション外来 :総排泄腔遺残症・外反症】

患者さんと養育者の生活状況の全般を把握し、患者さんの成長発達や特性に即した、トータルな支援を多職種で実践しています。そして、患者さん本人へ年齢や理解度に応じて妊孕性も含めた病気の説明を繰り返し行い、患者さんが望む自立に向けたサポートをしています。

(小児看護専門看護師 樋口 伊佐子)



## コロナに負けない！母性部門の取り組み

### STOPコロナ！作戦

安心して来院いただくために・・・

#### 外来受診される皆さまの感染症問診&体温をチェック

問診票：同居家族も含めた2週間前までの体調をお聞きします。

体温：非接触型体温計、もしくは腋下体温計で測定します。



#### やっています！リモートで無痛分娩教室



オンラインで妊婦教室に参加できます。麻酔科医師、助産師とお互いの顔を見ながらやりとりするので、遠方の方も安心して分娩の準備ができます。

#### 守りたい！立ち会い出産

感染対策を取りながら夫(パートナー)の立ち会いは実施中！



#### 対面診療の3密対策！タブレット端末登場



医師からの説明に動画を用いることで、感染対策としてだけでなく、より理解が進みます。

## 在宅支援病床の運用を開始して2年が経ちました！



2018年の秋から在宅支援病床の運用を始め、医療的ケアが必要な子どもと家族支援の症例は40名を超えました。そのうち0～2歳までが76%を占め、乳幼児に特化した在宅支援病床にするため、2020年10月から新たに、4階東棟に幼児期以降の在宅支援病床2床を設置しました。

様々な医療的ケアのうち、43%は気管切開を含む人工呼吸器を使用しており、在宅支援病床入床から退院まで約90日を要しています。



入院中は、家族の医療的ケアの習得を支援するとともに、

- ▶呼吸器の配置や電力の確認、呼吸器回路の長さを考慮した動線など、細かな確認を行うための家庭訪問
- ▶家族が安心して医療的ケアの確認ができるファミリールームを利用した院内外泊
- ▶退院後も継続して支援できる医療評価入院の調整

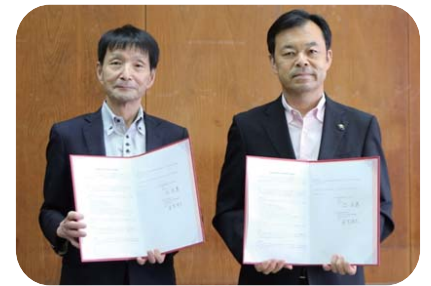
などを行っています。

今後も、子どもの状態の安定、家族の医療的なケア習得、家庭状況の調整のために、他職種と検討を重ね、地域連携をすすめていきたいと思ひます。

## 和泉市と「親子の健康と健やかな成育支援に関する連携協定」を締結しました

9月25日、和泉市と「親子の健康と健やかな成育支援に関する連携協定」を締結しました。

従前から「要保護児童対策地域協議会および同協議会周産期ネットワーク部会への参加」や、「発達外来受診時の医療と保健の連携」、「産後ケア事業委託」など、様々な事業協力をしてありますが、更なる連携強化のため今回の協定締結となりました。各々の資源を有効に活用し、綿密な相互連携と協力のもと、親子の健康保持増進や子どもの健やかな成育の確保に貢献していきたいと思ひます。



大阪母子医療センター 倉智総長  
和泉市 辻市長

## Let's 災害訓練 ～大阪 880 万人訓練～



『大阪 880 万人訓練』をご存知ですか？

大地震・津波の発生を想定して、大阪府全域において府民 880 万人で一斉に取り組む災害訓練です。

9月4日、母性部門では、健診に来られた妊婦さんや入院中の妊産婦さんと一緒に、患者参加型の訓練を実施しました。



## しまじろうが来てくれました！（WEB訪問）

11月17日(火)子どもたちに大人気のキャラクター「しまじろう」が「いっしょに笑おうキャラバン」でオンライン訪問してくれまし



お名前を呼んでくれたり、好きな食べ物をおしえてくれたりと、子どもたち、お母さんたちは大喜びでした。

## 2020年度イブニングセミナーのお知らせ

※医療関係者対象。事前申込みが必要です。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の状況により中止していましたが、11月より **WEB開催** しています。

【場所】 Webex 【時間】 17時45分～19時00分

【申込方法】 申込締切日までに、以下の項目を明記のうえ、メールにてお申込みください。

・受講希望日 ・職種 ・所属先 ・参加者名(フリガナ)

【申込先】 大阪母子医療センター 患者支援センター

E-mail: [chiren@wch.opho.jp](mailto:chiren@wch.opho.jp)

日程	テーマ/担当部署/講師
2021年2月4日(木)	子どもの嘔吐・腹痛・下痢
申込締切日2021/2/2	消化器・内分泌科/前山 隆智
2021年3月3日(水)	抗菌薬の適正使用
申込締切日2021/3/1	感染症科/野崎 昌俊

お申込みいただいたメールアドレスに開催日前日までに参加 URL をお送りします。

※今年度は、「大阪府医師会生涯教育研修システム」及び「日本小児科学会新専門医制度 iii 小児科領域講習」の単位認定はありませんのでご注意ください。

## スマホを利用した採血順番のお知らせシステムの開始

当センター採血室では、新型コロナウイルス感染対策及び、患者さんの利便性向上のため、スマホを利用した採血順番のお知らせシステムを開始しました。コロナ禍における密状態を避けるためぜひご活用ください。

受付を済ませた患者さんにはQRコードが印刷された採血室独自の番号表をお渡します。



QRコードにスマホからアクセスすると、採血待ち人数が確認できます。



検査受付入口のモニター画面には、待ち人数の詳細が確認できるようになりました。

## バルーンアートによる装飾



lucaemma バルーンプロジェクトの活動によりご支援いただきました！



2020年12月7日に大阪府の二次救急告示医療機関に認定されました。



## 交通のご案内



診察時間：平日 9時～17時30分  
予約受付時間：平日 9時～19時

地方独立行政法人 大阪府立病院機構

大阪母子医療センター 患者支援センター

〒594-1101 大阪府和泉市室堂町 840

【初診専用】 TEL: 0725-56-9890 (直通)

FAX: 0725-56-5605

【その他】 TEL: 0725-55-3113 (直通)

FAX: 0725-56-7785

【医師相談窓口】 E-mail: [chiren@wch.opho.jp](mailto:chiren@wch.opho.jp)

医療者対象  
ホットライン  
(※24時間受付直通)

PICUホットライン

☎ 0725-56-1070

小児がん・白血病  
ホットライン

☎ 0725-57-7677

心疾患ホットライン

☎ 0725-56-3833

この広報誌に関するご意見・ご要望は FAXにて患者支援センターにお寄せください。